

NEWCOMER

LONG TERM CARE MAGAZINE

ともに笑い、泣き、
”生きる“に寄り添う。
それが私の介護信念。

Person
04

NEWCOMER WORK LIFE

エメラルド
イソグチ

ISOGUCHI EMERALD

PROFESSION
CAREGIVER

TOP RUNNER

LONG TERM CARE MAGAZINE

相手を幸せにする。
そうすると自分も、幸せになる。
介護は幸せを育む仕事。

Person
03

TOP RUNNER WORK LIFE

上野和也

KAZUYA UENO

PROFESSION
CARE MANAGER

認知症の方との出会いが、私を介護の業界に導き、私を大きく成長させてくれた

昔、ある認知症の女性に何度も話しかけられたことがあったんです。介護の仕事に携わる前のことですが、上手に対応できなかったんですね。そして、その日の帰り道のこと。思い出しては、“自分への歯痒さ”みたいな気持ちがふつふつと湧いてきてー。

もし、その経験がなかったら、いま私はここにいません。

介護が私を育ててくれた

介護の仕事に入職した当初は、やはり認知症の方との関わりに戸惑いが多かったですね。なので、自分なりに、必死に学びました。経験を積みながら、少しずつ

つ関わり方や考え方が変化していきました。その頃の経験から、今では、介護の仕事は学べば確実に成長でき、仕事での自分の存在意義を見出しingると、確信しています。

これからは、クリエイティブなケアプランへのチャレンジが重要

普段の介護支援は、生活の中で困っていることを補完し、自立を支援するケアプランを構築していきます。その一方で、非日常的な介護支援に直面することがあります。例えば、ガン末期の方。いわゆる「終活」の視点を持って、利用者様の夢や希望を実現できるようなケアプランを提供することに重きを置きます。医療や介護保険外の支援も必要などといった難題を乗り越えて、「最期をどこで、どんな風に過ごしたいか」という希望を尊重しながら、本人と一緒に、ケアプランを創っていくわけ。このような時に求められるのがクリエイティブさ。このクリエイティブさが、これからの時代の介護には欠かせないのではないかと考えています。

「思いやり」が、「やりがい」に。介護が生み出す好循環

また、もう一つ、私が重視しているのは、利用者様のモチベーションの向上を促すようなプランを構築することです。例えば寝たきりの利用者、旅行の雰囲気を楽しめる提案を考えます。写真を見せるとか、ですね。

結局、思いやり、だと思ふんです。一人一人の人生のストーリーの中に、心の中に、私が一瞬でも存在できる。その結果として、利用者様の喜びが、とてつもない感謝の言葉として、かえってくる。これは、私が介護業



界でしか味わえないと思っているやりがい。ぜひ若い方達にも実際に携わって感じて欲しいですね。

いま自分が幸せじゃなくても、相手は幸せにできる。そしたら自然と、自分も幸せに

介護職が持つスキル、それが「相手を想う」こと。相手の立場に立って物事を考えることや感謝の気持ちを忘れない、といったことですね。相手の癖や話し方、行動などで読み取ったり。自分も、相手に徹底的に寄り添うことを常に意識しています。介護職で働く上でも、日常生活でも、一番大切なことだと思いますね。

介護も野球と同じチームプレー

私は幼少期から野球が好きで、『介護も野球と同じチームプレーだなあ』と思うことがあります。介護の仕事は、介護士はもちろん、医師や看護師、社会福祉士といったさまざまな職種や立場の人が連携して利用者様の介護にあたり、チームケアを行います。良いチームケアの中でこそ、より質の高いケアプランが提供できるのです。この「チームプレー」にも欠かせないのが、「相手を想う」こと。野球にも介護にも、「相手を想う」が欠かせないのです。

株式会社ケア美野島
美野島ケアプランセンター
●介護福祉士
●介護支援専門員
●主任介護支援専門員
●相談支援専門員
●終末期ケア専門士

上野和也

介護を必要とする方が介護保険サービスを受けられるように、ご利用者様などの相談に応えながらケアプランの作成や調整を行う、介護保険に関するスペシャリスト。



Message

読者へのメッセージ

介護の力で変わる、自分と世界。未知なる可能性に挑戦してほしい。若者に介護の世界に興味を持ってもらうためのアプローチとして、介護に触れる機会を作りたいですね。実際の介護を通して、思いやりの姿勢で信頼関係を築くことにより、介護に対する見方が変わり、寄り添いを重視した対応が身に付きます。これにより、「自分自身が幸せを感じられる人間に変わる」経験を通して、介護職で働く価値を理解してもらいたいと考えています。

福祉人財共働ワーキングの想いを込めたロゴマークを創りました!!



介護の仕事って、介護を必要としている人の“困った”に対してお手伝いする事かと思っていた。寄り添い、付き添い。そばでお世話する仕事。でも介護を必要としているご本人の生き方、考え方、行動を尊重してそっと距離をとって、一緒に沿って歩いていくことであることに気づいたんだ。介護の仕事って“そう”かもしれない。

関わり方は十人十色。みんな同じじゃないからサポートやコミュニケーションだって変わっていく

フィリピンにいたときは、介護と看護師の仕事が分かれていて、もともと私の中では介護という仕事は、看護の支援やサポートをする仕事だと思っていました。でも日本に来て、介護は、利用者様や患者様へのサポートがすごく大事だと気がついたのです。

施設の利用者様によっては認知症の激しい人もいます。そこで大切なのは「しんどいな」と思うのではなく、言葉や対応を変えて接することを常に心がけています。関わり方ってすごく大事だと感じていて、本当に1人ずつ対応が違うので臨機応変にしないといけないなと思っています。

利用者様が本当に大好きだから、利用者様のためにスキルアップしていく自分も好き

看護師から介護士になってスキルアップした点は、「考え方」です。介護職に携わって、利用者さん自身が、1人で



できることはちゃんと活かせるようにするなど、介護士目線で考えられるように関わり方も考えも変化していきました。

今は、看護医療の知識と介護の知識、両方の知識を私自身が活かせるのが利用者様や施設にとっても一番よいのではないかと感じている部分があります。

利用者様のためなら介護だけでなく医療的なことも、しっかり知識を深めようと思い日本で看護と介護の両方の資格を取ろうと奮闘中です。

利用者様は私の家族

102歳の施設の利用者様の話なのですが、私がフィリピンに一時帰国しようとした際に、その方が、私がもう日本に戻ってこないかと勘違いしたんですよ。帰国前の夜勤で働いている時に、その方の部屋から音がするので様子を見に行ったら、102歳なのに一生懸命自分の手を使って、机もペンを持つ手もガタガタしながら私宛に手紙を書いてくれていまし

た。どうしたの?と聞いたら、「これエメちゃんにあげる」って、手紙をくださって。手紙を開いたら「本当にエメちゃんが一番大好き」と書いてあって、その方が泣いてるのを見たら込み上げてくるものがあり、その時「利用者様は私の家族だ」と思うようになりました。

今後の目標 キャリアアップとその先に

資格が多いほど手当がつくというのもありますが、今後、外国人と一緒に仕事をするときに私が資格を取っていたら、多方向からサポートができると思っているんです。最終的な目標としては自分がキャリアアップしていき、自分にしかできないサポートを他の外国人に提供したいです。私がお手本になれるような支援をするためにキャリアアップは必要だと感じています。

現在、様々な資格を取得していますが、今後も資格をとりながら成長したいと思っています。

Message

読者へのメッセージ

「やってよかった」の気持ちは利用者さんの“生きる”に寄り添えること。介護の仕事って本当にやりがいがあります。正直に話すと、私も最初の頃は確かに「オムツ交換は嫌だな」とか、表面的な部分で苦手意識がありました。でもそれを乗り越えた先に利用者さんのために行動を起こしたことで、その利用者さんが、生きてくれている。だから、行動を起こして「よかった」っていう気持ちになる。そんな感情の上で利用者さんに言われる「ありがとう」という感謝の言葉がすごく響くのですよね。だから、介護の仕事は幸せな気持ちになれるのだと思います。



介護付き有料老人ホーム
ハーティーマインドなぎの
●介護職員
●特定技能1号

エメラルド イソグチ

フィリピンから日本に来て、3年目です。フィリピンでは、看護職として働き、過去には通訳者としても仕事をしていました。現在は介護職員として従事し、施設の口腔ケア委員会の委員長も務めています。